

令和3年4月30日

大阪府教育委員会
教育長 橋本 正司 様

少年自然の家共同事業体 代表者
533-0033
大阪市東淀川区東中島1-20-14
公益財団法人 大阪ユースホステル協会
会 長 平 岡 龍 人

令和2年度大阪府立少年自然の家の事業報告書の提出について

大阪府立少年自然の家基本協定書第7条の規定により下記のとおり報告します。

記

1. 主なとりくみについて
2. 事業実績について
3. 収入実績について
4. 損益計算書
5. その他の実績について
6. 利用者満足度について
7. 事故・苦情処理について
8. 利用実績について
9. サービスの安定性評価
10. 利益処分計算書

以 上

令和2年度 事業報告書

1-1. 主な取組み

年間利用者数

宿泊利用 7,528人 日帰り利用 17,443人 合計 24,971人

事業の状況

(重点的な取組み)

関係法令を遵守した運営

創意工夫やノウハウを活用し、合理的かつ効率的な業務の実施

大阪府新型コロナウイルス感染症対策本部の方針や業種別ガイドラインに基づく
感染症対策を行ない、安心、安全な施設運営に努める

施設内外の環境を快適、衛生的に保ち安全な利用をすすめる

SNSなどを利用した効果的な広報によりフォロワー数増加

教育コミュニティづくり推進事業の一環として出前講座の推進

(事業)

主催事業

青少年対象の夏休み長期宿泊体験 1事業

※コロナの影響により2事業を1事業に集約

読書活動と結びついた自然体験の推進事業 1事業

自然の中で読書活動推進事業 1事業

新たな教育課題への対応 1事業

自主事業

ホテル観賞の夕べ 1事業

木の実でジャムづくり 1事業

フォレスト・ジュニア・クラブ(森の学校) 1事業

障がいを抱える青少年への支援事業 1事業

※コロナの影響により中止

大阪府アドプトフォレスト 1事業

※コロナの影響により中止

ファミリーキャンプ 1事業

自然の家専属指導者の育成事業 1事業

近隣市町村との連携支援事業 1事業

インターンシップ(就労体験)推進事業 1事業

その他自主事業

ゴールデンウィーク宿泊・日帰りパック 1事業

初めてのダッチオープン 1事業

おとなのための自然体験活動 1事業

子育て応援します「親子のセミナー」 1事業

家族でたき火を楽しもう 1事業

クールジャパン推進企画「コスプレの森」 1事業

出会いの場推進事業「森の婚活」 1事業

開かれた施設としての地域連携	1事業
初めての木登りに挑戦	1事業
家族で遊ぼうボードゲーム	1事業

※コロナの影響により中止

(食堂)

利用者のニーズに合わせた献立作成
食堂における新型コロナウイルス感染症対策を徹底、衛生管理や食卓へのパーテーション設置などを進め、安心して食事をしてもらう取り組み
感染対策として個食対応の防災カレーを使ったプランを案内
食材の十分な加熱・適切な保管、徹底した安全管理の実施
野外炊飯や補食・夜食のアレルギーや疾病による食事制限、咀嚼・嚥下障がいのある方へのペースト食や刻み食の提供など、要望に応じて対応
野外炊飯の際、お客様の要望に応じて特別注文の食材の準備

提案による施設の維持及び補修に関する状況

(館内設備)

濾過器室大型サーモスタット混合栓取替え (大阪府)
汚水処理場破砕機取替え (大阪府)
汚水処理場荒目スクリーン取替え (大阪府)
本館浴槽ろ過器配管洗浄作業
第一電気室蓄電池交換 (大阪府)
第一電気室監視盤パワーサプライ交換 (大阪府)
汚水処理場スカム返送ポンプ取替え (大阪府)
B棟リーダー室空調修理(ガス充填)
公用車フロントガラス取替え、蓄電池交換
宿直室空調機器取替え
公用車軽トラ (スバルサンバー) 導入
汚水処理場送風機取替え、汚泥掻き寄せ機支持金具修繕 (大阪府)
宿泊棟空調機フィルター清掃
大研修室ドレン漏水修繕 (大阪府)
自家発電機のパネル電球および始動用タイマー取替え
厨房排気ファン制御盤修理
誘導灯配線漏電修理工事
消火栓用ホース取替え (1本)
サーバー機取替え

(食堂設備)

食堂食洗器ブースター取替え (大阪府)
食堂テーブルパーテーション設置
厨房ガス漏れ火災報知器取替え
厨房ガス漏れ配管修理 (大阪府)

(野外設備)

多目的広場倉庫屋根修繕
倒木処理
登山道点検
進入路、広場、野外ステージ、キャンプ場周辺 除草作業
第3炊飯場揚水ポンプ修繕 (大阪府)

第2炊飯場B炊飯場柱修繕
第2炊飯場かまど補修
下駐車場漏水修繕工事(大阪府)
テントメンテナンス
ツリーイングフィールド整備
アスレチック場遊具点検
野外食器用具洗浄作業

利用促進に向けた施設サービスの向上に関する提案

動画共有サービスを有効活用し、下見や打ち合わせに有効利用
新型コロナウイルス対策として、宿泊棟、研修室、食堂、風呂などの人数制限措置
教員向け、防災カレーの試作調理の実施
バーベキューガーデン奥貝塚に期間限定で水遊び&花火バック実施
バーベキューやダッチオーブンの新たなメニュー開発
GoTo トラベル、GoToEatへの参加
利用団体の要望によりプログラムの指導員を派遣
貝塚市 GoToEat 加盟施設情報誌、教育情報サイト「寺子屋プラス」、大阪ビジネス専門学校「大阪旅めがね」への掲載

業務委託・保守点検状況

警備保安管理業務
日常清掃業務
ボイラー(空調・温水ヒーター)運転管理業務
専用水道維持管理・汚水処理施設維持管理(毎月所定回数)
遊離残留塩素測定(毎月)
自家用電気工作物保安管理業務(月次および年次点検1回)
消防設備等点検(9月・3月)
空気環境測定(4月・6月・8月・10月・12月・2月)
厨房・食堂害虫駆除(6月・9月・12月・3月)
ガス温水器排ガス測定(6月・12月)
水道立入検査(7月)
汚泥搬出業務(11月)
小荷物専用昇降機検査(7月)
LPガス強制気化装置(ベーパーライザー)点検(7月・11月・3月)
浄化槽検査業務(10月)
浄水場水質検査(10月)
受水槽・高架水槽清掃(12月)
灯油地下タンク漏えい検査(12月)
特別清掃(2月・3月)
建築設備点検(12月)
防火設備点検(2月)
公用車6か月毎点検
ゴミ回収業務(週1~3回)
敷地内除草業務(随時)
温水ヒーター(ボイラー)点検(毎月)
自賠償保険・見舞金制度加入(4月)
施設・設備補修業務、物品修理業務、施設管理用物品購入業務、植栽・山林管理業務、野外施設等保守点検業務(以上、随時)

1-2. 主な取組みに対する総括・自己評価

令和2年度は、コロナウイルス感染拡大防止対策により、緊急事態措置宣言が発出されたため4月1日から休館、5月22日に日帰りの野外施設再開、26日に全面利用再開となった。

年間の約46%の集客がある第一四半期が休館になったことで、利用は激減したが、学校や青少年団体には秋以降の利用に日程変更をご案内するとともに、新型コロナウイルス感染症対策の内容を、ダイレクトメールやホームページ、SNSを活用して発信した。また、炊飯も大鍋での調理が難しいため、感染リスクが低く、個食対応のできる防災食を提案した。春から秋への日程変更や日帰りへの変更が相次ぎ、10、11月の利用は昨年対比115%と例年以上に利用があった。

さらに下半期の利用促進を図るため、9月に府内すべての小・中・高等学校に対して「ポストコロナにおける校外学習の利用について」をダイレクトメールで1,631通送付した。また、ホームページやインスタグラム等のSNSで感染予防対策をアップした。その結果、9月下旬以降、新規の学校団体が35件、数年ぶりに利用する学校団体が9件、申し込みがあった。

事業においては、コロナ禍においても安心して利用できる、屋外および家族参加が可能な事業を多く打ち出し集客を図った。しかし、昨年好評であった、ゴールデンウィークのキャンプ事業や、絵本の世界感を家族で体験できる「絵本でいただきます」などを予定していたが、休館に重なり中止となった。

11月は、コロナ禍ではあったが、感染対策を徹底しながら自然の家のオープンデーを実施した。ディスタンスを設けるため会場の規模を広げ、事前申込み制を導入した結果、大きな混乱もなく664名の参加者でにぎわった。以降の事業についてもQRコードによる事前申込制を取り入れたため「親子で焚き火を楽しもう」も、家族間で距離を取りつつ、安全に実施できた。

バーベキュー場の利用促進を図るため、「初めてのダッチオープン」シリーズの新メニューを企画し3回実施した。前年度に続き、大人・青年向けの事業を実施し、あらゆる年代が利用できる親しみやすい施設づくりを図った。また、夏場には家族単位でプールを貸出す水遊びと花火が楽しめるバッグを作り、好評であった。

食堂では、感染対策のため各テーブルにパーテーションやCO2センサーを設置した。ご飯やみそ汁の給仕をする人には使い捨てゴム手袋の提供やマスクの着用を促すなどの呼びかけを行なった。

登山道の整備や野外施設の補修は、休館中を利用して技師が中心になり作業をすることで経費節減と施設保全を両立して実施した。

2-1. 事業実施状況

		事業名	自主/ 主催	指 定 管 理 者 カ ウ ン ト	実績数		荒天 による 中止 人数 など	備考
4月	4/19.26	教員向けプログラム体験会	自主	日	日	中止		コロナの影響で催行中止
5月	5/2-6	GW宿泊パック	他自	宿	宿	中止	54	コロナの影響で催行中止 16家族
	5/2-6	日帰りプレイパーク	他自	日	日			
	5/16.17	絵本事業	主催	日	日	中止	40	コロナの影響で催行中止 12家族
	5/24	おとなのえんそく①	他自	日	日	中止	2	コロナの影響で催行中止
6月	6/5-7	ホテル観賞のタベ	自主	日	日	65		18家族
	6/13-14	フォレストジュニアクラブ ①	自主	宿	宿	10		
7月	7/5	木の実でジャム作り	自主	日	日	31		10家族
	7/12	親子deしぜんのようちえん ①	他自	日	日	10		4家族
	7/18-19	フォレストジュニアクラブ ②	自主	宿	宿	22		
8月	8/9-11	中高生チャレンジキャンプ	主催	宿	宿	延期		コロナの影響(第2波)で日 程延期
	8/12-16	こどもワイルドキャンプ	主催	宿	宿	延期		コロナの影響(第2波)で日 程延期
	8/29	おとなのえんそく②	他自	日	日	16		
9月	9/5-6	フォレストジュニアクラブ ③	自主	宿	宿	17		
	9/12	防災ピクニック	主催	日	日	55		16家族
	9/20-21	秋のファミリーキャンプ	自主	宿	宿	41		14家族
	9/27	森の婚活	他自	日	日	25		
10月	10/3.4	コスプレの森①②	他自	日	日	9		

	10/11	乗馬体験と臨床動作法	自主	日	日	中止	34	台風14号接近の為中止 12家族
	10/18	親子deしぜんのようちえん②	他自	日	日	26		11家族
	10/25	はじめての木登りに挑戦①	他自	日	日	13		
11月	11/3	自然の家オープンデー	他自	日	日	664		
		えほんのひろば	主催	日	日	150		
	11/14	第17回大阪府アドプトフォレスト	自主	日	日	中止		清水建設よりコロナの影響で中止と通達
	11/15	おとなのえんそく③	他自	日	日	中止		今期中止
	11/22	はじめての木登りに挑戦②	他自	日	日	14		
	11/28.29	コスプレの森③④	他自	日	日	37		
	11/28.29	絵本でいただきます!	主催	宿	宿	21		5家族
			日	日	15		10家族	
12月	12/5-6	ツリーイングクライマー資格認定講習T-1	自主	宿	宿	延期		コロナの影響(第3波)で日程延期
	12/12-13	フォレストジュニアクラブ④	自主	宿	宿	中止	14	コロナの影響(第3波)で中止
	12/12.13	コスプレの森⑤⑥	他自	日	日	9		
	12/20	初めてのダッチオープン①	他自	日	日	67		15グループ
1月	1/9-10	PLTファシリテーター養成講座	自主	宿	宿	中止	2	コロナの影響(第3波)で催行中止
	1/10	焚火を楽しもう①	他自	日	日	56		16家族
	1/16-17	フォレストジュニアクラブ⑤	自主	宿	宿	中止	26	コロナの影響(第3波)で中止
	1/16-17	ツリーイングクライマー資格認定講習T-2	自主	宿	宿	延期		コロナの影響(第3波)で日程延期
	1/16-17	ツリーイングクライマー資格認定講習T-1	自主	宿	宿	6		12/5-6 延期分
	1/17	焚火を楽しもう②	他自	日	日	34		10家族
	1/23	コスプレの森⑦	他自	日	日	0		当日参加者無し
		初めてのダッチオープン②	他自	日	日	4		1家族
	1/24	焚火を楽しもう③	他自	日	日	中止	89	雨天の為中止
	1/30	ボードゲームで遊ぼう	他自	日	日	中止		コロナの影響で催行中止
1/31	親子deしぜんのようちえん③	他自	日	日	28		10家族	

	1/31	焚火を楽しもう④	他自	日	日	130		39 家族
	2/6.7	そぶらリーダー研修(6日オンライン.7日実地研修)	自主	日	日	10		
2月	2/7	焚火を楽しもう⑤	他自	日	日	93		29 家族
	2/13	コスプレの森③	他自	日	日	2		1 グループ
	2/15	初めてのダッチオープン③	他自	日	日	18		5 グループ
	2/14	焚火を楽しもう⑥	他自	日	日	46		16 家族
	2/20-21	ツリーイングクライマー資格認定講習 T-3	自主	宿	宿	中止		コロナの影響(第3波)で中止
	2/20-21	ツリーイングクライマー資格認定講習 T-2	自主	宿	宿	5		1/16-17 延期分
	2/21	焚火を楽しもう⑦	他自	日	日	103		27 家族
	2/27-28	PLT ファシリテーター養成講座(延期分)	自主	宿	宿	中止		コロナの影響(第3波)で中止
	2/28	焚火を楽しもう⑧	他自	日	日	94		30 家族
3月	3/7	焚火を楽しもう⑨	他自	日	日	68		19 家族
	3/14	焚火を楽しもう⑩	他自	日	日	64		21 家族
	3/13-14	フォレストジュニアクラブ⑥	自主	日	日	19		
	3/21	チャレンジ&ワイルドキャンプ	主催	日	日	17		8月 中高生チャレンジキャンプ、ワイルドキャンプの延期分として臨時開催
不定期		おおさか元気広場 出前講座	自主	日	日	60		
		シルバー生涯学習 DAY	他自	日	日	0		今期依頼無し
		インターンシップ(就労体験)推進事業	自主	日	日	11		大阪教育大学/大阪体育大学
合計		年間 21 事業 40回(宿泊、日帰り)					2185	172
	内訳	主催事業		5	事業	258	40	※不定期のおおさか元気広場、インターンシップに関しては自主事業カウントのみをそれぞれ1とする。 ※チャレンジ&ワイルドキャンプは2事業集約の為、2カウントとする
		自主事業		8	事業	297	76	
		その他自主事業		8	事業	1630	56	

2-2. 事業に関する総括・自己評価

令和2年度に自然の家で実施した事業は計40本(宿泊7本、日帰り33本)。参加者総数は2185人で昨年度(2616人)より431人の減となった。

児童対象事業の「フォレスト・ジュニア・クラブ(1泊2日)」は全6回実施のうち、2回が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、年間で68人の参加。参加状況は例年同様にキャンセル待ちを多数抱える人気の事業であった。兄弟での参加や、対象年齢になったら参加をしたいという保護者からの声も多く、自然の家の顔ともいえる事業である。

青少年対象の夏休み長期宿泊体験「子どもワイルドキャンプ(6泊7日)」と「中高生チャレンジキャンプ(2泊3日)」も新型コロナウイルス感染症(第二波)の影響を受け延期となった。コロナウイルス対策も鑑み、本来であれば長期宿泊自然体験という形での催行を行いたかったが、なかなか状況が好転せず長期宿泊の期間を調整することは叶わなかったが、日帰り事業として「チャレンジ&ワイルドキャンプ」を行った。参加者については、フォレスト・ジュニア・クラブを卒業した中学1年生やリピーターがよく見られ17人の参加となった。コロナ禍にあっても屋外での活動基本にし、感染予防対策に十分配慮し行うことでたった1日ではあるが参加者に非日常の自然体験を提供できたことは、アンケート結果から読み解くことができた。

主催事業として新規に行った「防災ピクニック」は食という、生きていく上で不可欠な要素と防災意識の向上を目的として催行した。実施に関しては防災食を扱う企業へも主旨を伝え、協賛という形で防災食の提供を受けることができた。今回はコロナ禍にあり日帰りという形であったが、今後の展開として、避難所体験や救急法の伝達など拡大して行う可能性を見出すことができた。参加者は16家族55人。

「森の婚活」は男女合わせて25人の参加。巷で行う婚活イベントとは違う、「自然の家らしさ」を意識し、自然の中、ゆったりと参加者が交流できる空間づくりに配慮した。今回は第一希望のカップリングだけで3組もマッチングすることができた。それ以外にも参加者同士連絡先の交換ができるようにしたり、回を増すごとに、細やかな配慮が行えるようになった。参加者からは「コロナ禍にあっても開催してくれて良かった」と高評価を得ることができた。

「親子deしぜんのようちえん」は今年3回開催。参加者は合計で25家族64人。講師の人気の高い事業であり、「森のようちえん」への高い関心が伺える。

「たき火を楽しもう」1月～3月開催は人気事業であるが、今年は3月にも継続を求め声があり、臨時開催を行う運びとなった。参加人数は全10回(うち、2回が追加開催)で688人と毎回の平均参加数が50人を超えている。「野外でディスタンスを十分にとれる環境」、「自分たちの空間を作って楽しめる」、「豊かな自然に囲まれている」「自粛生活の窮屈な状況の息抜きになった」とアンケートでは高く評価され、コロナ禍における野外活動施設の有用性を発揮することができた。例年は当日参加も可としていたが、密にならないように事前申込制にした。

「臨床動作法と乗馬体験」は、障がいを持つ子どもとその家族が対象であり、コロナ禍にあつての開催の方法を実行委員と共に模索したが、参加者の状況によっては、十分な感染対策を取ることが困難であると判断し、今年度は催行中止至った。

自然の家の施設開放と地域連携を目的とした「オープンデー」は、近隣施設が休所し単

独開催として執り行った。家族主体のイベントに内容を寄せ、またコロナウイルス感染症対策を十分に行った上での開催となったため、①事前予約制 ②上限 600 名まで ③3密を避ける工夫 などが余儀なくされた。結果、開催1週間前には定員に達する申込となり、当日もほぼ予定通りの来場者となった。音楽祭は、5 団体の参加を募り、開放的な環境で音楽祭も出来たので、目的は達成できた。参加人数は 648 人。

事業の実施にあたっては、大学生・社会人専属ボランティアが、職員指導の元でプログラム支援を行った。現在登録数は 22 人。また、大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、事業等にリーダーとして参加することでスキルアップを図った。

事業の広報は、ホームページや広報誌をはじめ、LINE や Instagram などの SNS も活用し、事業開催の情報発信等に努めている。また今年度は YouTube のチャンネル登録も行い、コロナ禍に置いての施設案内の一環として、新型コロナウイルス感染症対策の情報提供や、施設の案内などの発信に活用している。

3-1. 収入実績

施設総収入額

(1) 宿泊等部門

20,776,024 円

項目	計画	実績
利用料金収入	51,360,000円	8,907,340円
事業収入他	29,814,000円	11,868,684円
総収入	81,174,000円	20,776,024円

(2) 食堂等部門

17,761,236 円

項目	計画	実績
食堂料金収入	99,170,000円	17,761,236円
事業収入他	なし	なし
総収入	99,170,000円	17,761,236円

(3) 府管理運営委託料

58,237,000 円

(4) 管理運営業務契約書第34条に基づく協議による大阪府負担金

12,791,191 円

(5) 助成金

27,078,894 (内、雇用調整助成金 26,228,894) 円

3-2. 収入に関する総括・自己評価

新型コロナウイルス感染症による休館やキャンセルのため、利用、食事ともに売り上げが大幅に減少し、目標数を大きく下回る結果となった。

事業回数の増や、食堂の感染防止メニューなどにより下半期を中心に利用増を図った。10.11月には若干昨年よりも増加したが、計画には届かなかった。

4-1. 損益計算表

(1) 総括損益計算書

項 目	金 額
宿泊部門総収入 ①	48,357,482円
食堂部門総収入 ②	30,049,863円
管理運営委託費 ③	58,237,000円
施設総収入 ④	136,644,345円
宿泊部門総支出 ⑤	98,497,336円
食堂部門総支出 ⑥	40,813,873円
施設総支出 ⑦ (⑤+⑥)	139,311,209円
損益 ⑧ (⑦-④)	-2,666,864円

(2) 部門別損益計算書

項 目	合計	総収入 対比率	宿泊等部門	食堂等部門
利用料金収入 A	8,907,340円	6.5%	8,907,340円	
食堂収入 B	16,871,025円	12.3%		16,871,025円
事業収入他 C	6,965,638円	5.1%	6,965,638円	
自主事業収入 D	4,419,296円	3.2%	4,419,296円	
自主事業収入 (バーベキュー場運営) E	1,373,961円	1.0%	483,750円	890,211円
管理運営委託費 F	58,237,000円	42.6%	58,237,000円	
補助金等収入 G	39,870,085円	29.2%	27,581,458円	12,288,627円
(内訳) 雇用調整助成金	26,228,894円		14,315,267円	11,913,627円
補助金等	850,000円		475,000円	375,000円
大阪府補填金	12,791,191円		12,791,191円	
総収入 H (A~G合計)	136,644,345円	100.0%	106,594,482円	30,049,863円

事業費用 J	合計	100.0%	98,497,336円	40,813,873円
人件費	78,555,128円	56.4%	55,586,056円	22,969,072円
本部人件費	6,406,837円	4.6%	3,203,419円	3,203,418円
光熱水費	13,060,238円	9.4%	8,728,908円	4,331,330円
消耗品費	1,315,975円	0.9%	780,354円	535,621円
宣伝費	511,885円	0.4%	511,885円	0円
原材料費	12,129,197円	8.7%	3,833,270円	8,295,927円
修繕費	537,064円	0.4%	402,864円	134,200円
手数料	181,943円	0.1%	158,243円	23,700円
委託料	10,299,004円	7.4%	10,233,004円	66,000円
公租公課費	5,348,053円	3.8%	4,900,135円	447,918円
賃借料	3,098,610円	2.2%	3,098,610円	0円
施設整備費	593,340円	0.4%	593,340円	0円
その他	2,149,392円	1.5%	2,149,392円	0円
本部事務費	862,612円	0.6%	431,306円	431,306円
自主事業に係る経費	4,261,931円	3.1%	3,886,550円	375,381円
損益 (H-J)	-2,666,864円		8,097,146円	-10,764,010円

うち投資額 バーベキュー場リース	1,860,012
------------------	-----------

4-2. 損益に関する総括・自己評価

上半期は大阪府新型コロナウイルス感染症対策本部の方針により5月26日まで臨時休業となったことや、その後もキャンセルが相次ぎ、利用料および食堂収入が大きく減収となった。上半期から下半期への利用変更や日帰り利用への変更などがあり、10、11月は昨年を上回る利用があったが、収入の要となる宿泊利用が大きく減少したため利用、食堂収入ともに減収となった。

事業収入は、コロナ禍でも利用が見込める家族をターゲットとして人気の事業は増回するなど工夫をした結果、比較的健闘したが、宿泊や食事を伴うキャンプ事業が中止になったことが大きく影響した。

支出は人件費について公的助成金を申請するなど、負担をできるだけ軽減するべく努力した。消耗品購入や修繕についても優先順位をつけて行った。委託料について法令上必要なものは業者に委託したが、その際にも必ず相見積もりを数社取るなど、経費削減に務めた。また自主で行えるものは技師を中心に行い、できる限りの支出を抑えた。

5-1. その他の実績（従業員研修、個人情報保護及び情報公開体制等）

職員研修

事業所内での研修に加え、外部の研修会や青少年教育施設が主催する研修、情報交換会、実践発表などにも積極的に職員を派遣し、知識の習得とスキルアップを図った。今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、リモートによる研修を活用した。

8月21日	職員研修（防災カレー作り）	11名
10月5日	消防訓練、防災講話	16名
10月28日	大阪府教育庁主催 人権教育地区別セミナー	2名
11月2日	大阪府キャンプ協会リスクマネジメントセミナー	2名
11月4日	岸和田保健所立入り検査	
11月21日～23日	キャンプインストラクター講習会	1名
11月26日	大阪府教育庁主催 人権教育地区別セミナー	1名
12月2日	大阪府教育庁主催 人権教育地区別セミナー	2名
12月15日～17日	近畿地区青少年教育施設協議会所長会議 専門委員会・研修会	3名
12月5～6日	ツリーイングT-1資格認定講習	1名
1月7～31日	社会教育主事講習受講	2名
1月16～17日	ツリーイングT-2資格認定講習	1名
1月23日	ツリーイング総会（神戸市しあわせの村）	2名
1月27日	大阪府教育庁主催 人権教育セミナー	1名
2月6日～7日	そぶらリーダー研修	16名
2月9日	近畿地区青少年教育施設ユースプロジェクト研修	4名
2月17日	(公財)大阪ユースホステル協会職員研修会(人権研修)	12名
2月17～18日	甲種防火管理者講習	1名
3月3日	消防訓練	18名
3月16日	(一財)大阪府青少年活動財団職員研修会(人権研修)	3名

個人情報の保護等

個人情報取り扱い規程に基づき、入手した個人情報は適切に管理した。

情報公開について

管理運営業務に関する書類を備え置いている。情報公開の請求はなかった。

5-2. その他の実績に対する総括・自己評価

職員のスキルアップや知識向上のため、個々のレベルに合わせて計画的に外部研修会への派遣や自主研修などを行った。特にキャンプディレクターやツリーイング、指導系の技術習得を図った。社会教育主事研修は、リモートを活用して2名が受講した。うち1名は合格、1名は4単位を取得した。

毎月実施している全体会議の場など、危険回避・安全対策・衛生管理・人権問題に関する知識について職員の相互理解を深める場を設けている。

衛生管理に関する講習会は新型コロナ感染症対策のためほとんどが中止となった。

キャンプ協会主催のリスクマネジメントセミナーはコロナ禍の施設運営について発表を行ない、好評であった。

そぶりだ（自然の家の専属ボランティアリーダー）の研修は1日目の座学をリモートにて、2日目は所内で野外炊飯実習を行うなどリーダーの育成に力を入れた。

人権研修は所管課主催の研修は新人を中心に受講、管理団体毎の自主研修では「同和問題、LGBTを考える」、「SDGsと人権」などを学んだ。

個人情報については、事業の申し込み時に、以後の案内送付や写真提供の可否を必ず確認するなど、個人情報保護に努めた。

6-1. 利用者アンケートについて（満足度・改善要望等）

令和2年度 4月～3月分の利用者アンケート集計について

1. 当施設をどのような方法で知りましたか？ ※回答数242件

過去に（以前に）利用して知っていた	62%
ホームページから知った	29%
口コミ	8%
その他	1%

2. 施設についての満足度（宿泊棟・体育館・研修室・野外活動施設等）※回答数243件

満足	84%
普通	15%
不満	1%

<改善要望>

- B棟101号室に宿泊しました。網戸が破れていて、換気したくても虫が気になりできませんでした→修繕済
- 炊飯器の水道が一か所止まりません。野外女子トイレ（女子様式）のドアのかぎがかかりません→修繕済
- 宿泊棟の掃除機が機能しないので困った→フィルター交換をし、今後は定期的に点検する。

3. 食事についての満足度（食堂からの提供食・野外炊飯材料等） ※回答数156件

満足	76%
普通	22%
不満	2%

<改善要望>

- もう少し温かかったらさらに良かったと思います→なるべく食事時間に合わせて提供するようにしている。

- ちょっと大人っぽいメニューがあり、子ども達は残した→豚の生姜焼きが子どもには合わなかったらしいので、ハンバーグなどで対応する。

4. 職員の対応についての満足度（事前打合わせ・電話対応・利用当日の対応等）※回答数242件

満足 92%
普通 7%
不満 1%

- 有料でもいいので、野外炊飯やキャンプファイヤー等の火おこしのお手伝いが欲しかった→有料サポートのご案内が出来ていなかった。
- 最近ではコロナで初心者が増え、マナーが悪いので細かく利用規則など決めたも良いと思います。とても気に入りましたので、皆が気持ちよく使うために。→受付やオリエンテーションでしっかりと伝えるように心がける。

5. 達成度 ※回答数241件

90～100%達成 73%
70～89%達成 24%
50～69%達成 3%

実施したプログラム上位と意見

①野外炊飯41件 ②キャンプファイヤー39件 ③展望台ハイキング28件

- 野外炊飯・・・炊飯場の水が濁っていた。しばらく様子を見ていたらきれいな水道水になりました→しばらく水栓を閉めていたので、濁りがあった。
- キャンプファイヤー・・・屋根あり、伝統あり、電源ありのとても良い施設だった。
- ハイキング・・・登山道が良く整備されていて歩きやすく2時間程度のハイキングとしては十分満足できるコースだった。

6-2. 利用者アンケートに対する総括・自己評価

今年度は84%の回収率であった。

施設の申し込みは、利用歴のある団体が圧倒的に多いが、今回ホームページから知ったという回答が29%を占めており、SNSや外部サイトなどに多く広報を打った効果が出ていると思われる。

施設については、安全性を優先し、改修、修繕を進めている。

食事についてマイナス意見はあまり見られないが、朝食が冷えていたという意見があるので、なるべく食事時間に合わせて提供している。

職員の対応についてはおおむね好評であるが、新人がおこなったオリエンテーションの話し方などに指摘があったので、研修を強化する。

新型コロナウイルス感染症により、利用が減少したため、アンケートの件数が減ったが、それだけにいただいた意見を全体会議等で話し合い、優先順位を考えて対応していきたい。

7-1. 事故・苦情処理

令和2年度中に事故疾病報告のあった事例は計11件。
内訳は外傷が6件、体調不良や熱発が4件、吐き気・頭痛1件。
発生場所は、炊飯場など屋外活動中とその前後、体育館での屋内活動中、宿舎や談話室など宿泊棟内などであった。
発生時期は、8月1件、10月6件、11月2件、2月1件、3月1件。救急車の要請はなかった。
新型コロナウイルス感染症対策として、発熱の場合は保健所や相談窓口への連絡が必須となっているため、団体代表者と連携し連絡して支持を仰いだ。結果的に陽性ではなかったが、夜間の相談窓口はつながりにくく、病院受診後の結果が来るまで時間がかかることなどがあり、対応に追われた。
事故・疾病の発生時は、団体責任者と連携して応急的措置をとっている。事前打合せ時では、毒性植物の注意、毒虫や毒蛇・スズメバチ・マダニなどに対する注意の他、滞在中は、雷注意報など気象情報の提供を行い事故予防に努めた。
利用者の安全確保と危険回避については、点検により登山道補修、枯木倒木処理、野外炊飯場など補修整備に努めている。
今年はハチやダニによる腫れや怪我で通院したスタッフが数人いたため、作業の際には十分注意を払って行うように促した。
また毎年、全職員・従業員を対象に普通救命講習・AED講習を実施して有事に備えているが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催を自粛した。

7-2. 事故・苦情処理に対する総括・自己評価

事故対策については、定期的な施設内の巡回をおこない、安全管理に努めた。
台風による自然災害では、倒木や路肩崩れが発生しており、職員で処分、修復作業をおこなった。その間、利用者への周知と早期復旧に努めた。
苦情については、適切で迅速な対応を心がけている。
また、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、5月22日までの営業自粛休館については、大きなトラブルや苦情には繋がらなかった。再開時には感染症対策についての詳細を記した「再開のお知らせ」等を送付し、ホームページ上にも随時アップしたため、目立った苦情等はなかった。

8-1. 利用実績 (管理宿泊部門)

(1) 概要

			備 考
開所日数		307日	
休所日数		58日	
利用日数	宿 泊	122日	
	日帰り	242日	
利用件数	宿 泊	326件	
	日帰り	921件	
利用人数	宿 泊	7,528人	
	日帰り	17,443人	
一日平均利用件数	宿 泊	1.0件	
	日帰り	3.0件	
一日平均利用人数	宿 泊	25人	
	日帰り	57人	
利用料金収入状況 (単位 円)	宿 泊 棟	4,998,500円	
	テ ン ト	397,080円	
	日 帰 り	3,511,760円	
	合 計	8,907,340円	

(2) 利用内訳

区分		団体数	人数	備考
宿泊	宿泊棟	未就学	309人	
		小学生	3,482人	
		中学生	797人	
		高校生	359人	
		他学生	106人	
		指導者	559人	
		他大人	1,319人	
		計	6,931人	
	テント	未就学	40人	
		小学生	139人	
		中学生	5人	
		高校生	80人	
		他学生	1人	
		指導者	21人	
他大人		311人		
計		597人		
日帰り	未就学	927人		
	小学生	7,147人		
	中学生	2,452人		
	高校生	178人		
	他学生	254人		
	指導者	1,587人		
	他大人	4,898人		
	計	17,443人		

(3) 宿泊利用実績に対する総括・自己評価

令和2年度は新型コロナウイルス感染症による休館やキャンセルにより大幅に利用減少した。特に宿泊利用団体は昨年690団体から326団体38,592人減少、昨年対比16%にとどまった。屋外需要が高まり、テント泊の件数は昨年よりも倍増しているが、宿舍泊と違い食材の持ち込み利用が多いため、あまり収入には結びつかない。日帰り利用団体は昨年1,113団体から、921団体と比較的健闘した。学校団体利用を春から秋に誘導した結果、多くが日帰りに変更したことや、デイキャンプ、バーベキュー利用などの屋外需要によるものである。コロナによる影響を受ける中、家族利用や屋外需要を伸ばすべく事業を増回したりDM送付、SNSを活用し利用増を図るなど、新型コロナに影響されながらもできることを行なった結果である。

8-2. 利用実績 (食堂部門)

(1) 概要

			備考
売上収入状況	食堂	10,175,370円	
	野外炊飯	4,976,275円	
	その他	1,719,380円	
	BBQ関連	890,211円	
	合計	17,761,236円	

(2) 区分別食事売上状況

		食数	売上額
食堂	朝食	5,494	2,788,260円
	特別食	12	3,060円
	昼食	3,183	2,099,440円
	特別食	631	391,640円
	夕食	4,930	4,270,000円
	特別食	531	345,500円
	雑収入		67,140円
野外炊飯		9,407	4,976,275円
BBQ食材収入		238	442,801円
販売	弁当	339	223,740円
	補食・夜食	8,815	1,495,640円
BBQ付帯収入		1,817	447,410円
水筒補充用お茶		7,011	210,330円
合計		35,397	17,761,236円

※合計食数には、お茶を含まず。(金額にはお茶・雑収入も含んでいます)

(3) 食堂利用実績に対する総括・自己評価

食堂部門は、新型コロナウイルスによる休館やキャンセルにより、大きく減収となった。屋内での食事を避ける傾向があったため、手作り弁当の提供を勧めたり、テーブルすべてにパーテーションを設置するなど感染対策を施したが、収入は昨年対比16.5%となった。野外炊飯は、学校利用が落ち込む中、感染対策と防災教育を目的とした「防災カレー」を提案するなど工夫した。収入は昨年対比30%にとどまった。バーベキュー場関連は屋外需要のため利用はあったが、感染対策によるテーブルの人数制限などが影響した。

9. サービスの安定性評価

(1) 収支

項 目	事業計画	実績	対計画比
宿泊部門総収入 ①	79,663,000円	47,646,420円	59.8%
食堂部門総収入 ②	100,681,000円	17,761,236円	17.6%
管理運営委託費 ③	58,237,000円	58,237,000円	100.0%
施設総収入 ④	238,581,000円	123,644,656円	51.8%
宿泊部門総支出 ⑤	137,796,444円	99,761,658円	72.4%
食堂部門総支出 ⑥	100,483,410円	40,824,054円	40.6%
施設総支出 ⑦ (⑤+⑥)	238,279,854円	140,585,712円	59.0%
損益 ⑧ (⑦-④)	301,146円	-16,941,056円	

(2) 部門別収支

(単位：円)

項 目	事業計画		実績			
	宿泊等部門	食堂等部門	宿泊等部門	対計画比	食堂等部門	対計画比
利用料金収入 A	51,360,000		8,907,340	17.3%		
食堂収入 B		99,170,000			16,871,025	17.0%
管理運営事業の活動系事業収入 C	22,726,000		6,958,988	31%		
自主事業部門の活動系事業収入 D	4,796,000		4,215,946	87.9%		
自主事業部門のバーベキュー収入 E	781,000	1,511,000	483,750	61.9%	890,211	59%
管理運営委託費 F	58,237,000		58,237,000	100.0%		
補助金等 G			27,080,396		11,787,565	
総収入 H (A~G合計)	137,900,000	100,681,000	105,883,420	76.8%	29,548,801	29.3%

事業費用 J	137,796,444	100,483,410	99,761,658	72.4%	40,824,054	40.6%
人件費	67,849,228	29,342,349	56,805,856	83.7%	22,969,072	78.3%
本部人件費	3,300,000	3,300,000	3,203,419	97.1%	3,203,418	97.1%
光熱水費	16,467,000	8,910,000	8,728,908	53.0%	4,331,330	48.6%
消耗品費	3,137,827	110,000	780,354	24.9%	535,621	486.9%
宣伝費	1,166,000	0	510,805	43.8%	0	
原材料費	12,812,800	52,268,636	3,833,270	29.9%	8,295,927	15.9%
修繕費	2,310,000	1,100,000	402,864	17.4%	134,200	12.2%
手数料	130,020	5,500	158,243	121.7%	23,700	430.9%
委託料	11,975,392	0	10,233,004	85.5%	66,000	
公租公課費	6,980,993	4,124,725	4,945,737	70.8%	458,313	11.1%
賃借料	3,300,000	0	3,098,610	93.9%	0	
施設整備費	0	0	593,340		0	
その他	2,829,984	22,000	2,149,392	76.0%	0	0.0%
本部事務費	750,000	450,000	431,306	57.5%	431,306	95.8%
自主事業に係る経費	4,787,200	850,200	3,886,550	81.2%	375,167	44.1%
損益 (H-J)	103,556	197,590	6,121,762		-11,275,253	

うち投資額	BBQ場等投資額	1,860,012		1,860,012		
-------	----------	-----------	--	-----------	--	--

(3) 経営状況分析指標

	事業計画	実績	対計画比	備考
事業収支 (収入(A)-支出(B))	301,146円	-2,666,864円	-885.6%	
利用料金比率 (利用料金収入/収入(A))	21.5%	6.5%	30.3%	
人件費比率 (人件費/支出(B))	40.8%	56.4%	138.2%	
外部委託費比率 (外部委託費合計/支出(B))	5.0%	7.4%	146.5%	
利用者あたり管理コスト (支出(B)/延べ利用者数)	2,223円	5,579円	251.0%	
利用者あたり自治体負担コスト (指定管理料/延べ利用者)	543円	2,386円	439.1%	

* 事業改善に向けた分析 *

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、施設の運営は例年と大きく異なる結果となった。施設の利用制限や休止、利用者側からの申出による自粛により、計画・前年実績ともに、大きく下回ることとなった。よって、これらの数値を事業改善に向けた分析として利用することはできないが、防災食(個食)炊飯など新しい取り組みも好評であり、新しい生活様式、これからの活動スタイルを意識したプログラム展開とアクティビティー開発を行うことが必須と考えている。

コロナ禍の回復状況に応じて、その状況にふさわしいものをすぐに提案できるよう、多様なプログラム展開とアクティビティーを用意して、新時代に挑みたい。

10. 利益処分計算書

1. 当期末処分利益 A	= (3) - (6)	-4,198,190
収益総額 (1)		136,644,345
自主事業に係る収入 (2)		5,793,257
納付額の根拠となる収入額 (3) = (1) - (2)		130,851,088
支出総額 (4)		139,311,209
自主事業に係る支出 (5)		4,261,931
納付額の根拠となる支出額 (6) = (4) - (5)		135,049,278
2. 大阪府への納付金 B	= A / 2 (マイナスの場合は0円)	0
3. 指定管理者への分配額付金 C	= (1) - (4) - B (マイナスの場合は負担額)	-2,666,864
公益財団法人大阪ユースホステル協会	C × 0.7	-1,866,805
一般財団法人大阪府青少年活動財団	C × 0.3	-800,059
4. 次期繰り越し収支差額		0